



取組みの主な進捗状況

生活のDX

市営駐車場の空き状況をHPでリアルタイム掲載



鯖江市は、市営駐車場7か所の空き状況を、リアルタイムで市のHP上に掲載しています。駐車場の満空状況や空き台数が1分ごとに更新されるほか、周辺の交通情報をライブカメラで確認できます。イベント開催時など、事前に混雑具合を確認でき、お出かけ時の利便性向上が期待されます。

Web上での医療機関からの紹介予約を導入

県立病院と福井赤十字病院は地域の医療機関からの紹介予約をWEB上で行う「すいSUIねっと福井」の運用を開始しました。従来の電話やFAXでは30分程度かかっていたところ、システムでは即時に予約が確定します。その場で予約票が発行されるため、患者さんの待ち時間が大幅に短縮される

とともに、予約を受け付ける職員の負担も軽減されます。



産業のDX

「デジタルエンジニアリング室」を新設



県は、工業技術センター内に企業の製品開発をデジタル技術で支援する拠点を新設しました。3Dモデル作成やシミュレーション解析の装置を集約しており、企業の方は製品開発に使用できます。使用方法等はセンター職員が伴走支援を行います。物価高騰や人材不足が続く中、デジタル技術に手が届かない中小企業等を支援していきます。

県内企業のデジタルツール導入を後押し

県は、県内中小企業のDXを後押しするため、実用的なデジタルツールを掲載したカタログを作成しました。バックオフィスや現場の業務効率化・生産性向上に資するツールが掲載されており、「どのデジタルツールを選べばよいか分からない」といった企業のツール選定の参考となります。県がカタログ掲載ツールの導入費用を補助するほか、販売事業者が選定から導入、活用までを一体的に支援します。



行政のDX

自動運転ドローンとAI差分解析で予兆を監視



AI解析画面（国道157号 大野市中島）

県は、30日間のドローン自動飛行による現場監視に成功しました。撮影映像からAI差分解析により災害の予兆を観測します。職員が連日足を運んでいた土砂崩れ現場での監視業務において、職員の安全確保や効率化に大きな効果が見られました。今後も、防災へのドローン活用を官民協働で進めていきます。

獣害対策にAIとロボットを活用

南越前町は、大阪経済大学と協定を締結し、AI技術による獣害対策を始めました。駆除対象のシカであるかをAIが識別するくくり罠を使い、選択的に捕獲することでクマの錯誤捕獲を防ぎます。動物を追い払う4足歩行ロボットとあわせて、今年度、被害が増える秋頃に実証実験

を行う予定です。

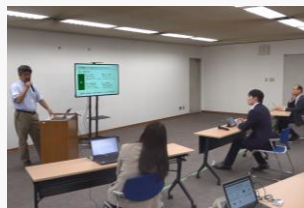


最近の県内の動き

幹部職員を対象にAIセミナーを開催

県は、DX推進アドバイザーを務める狩野英司氏を講師として招き、幹部職員を対象に「行政におけるAIとの向き合い方」をテーマにセミナーを開催しました。講師からは、生成AIを前提として行政運営そのものを再設計する「AX」の必要性や、課題解決・業務改革・行政サービスへのAI活用方向性が示され、石田知事をはじめ、出席した幹部職員はAIに関する知見を深めました。

今後も、「地方発AX」の実現に向け、県庁自らが率先してAIの活用を進め、業務改善に努めていきます。



「ふくいはいびコイン」の利用がますます拡大！

「ふくアプリ」のユーザー数が30万人を突破し、デジタル地域通貨「ふくいはいびコイン」の利用がますます拡大しています。県では、物価高対策のプレミアム付デジタル商品券「ふく+」や、県内への宿泊旅行キャンペーンなどのさまざまな事業を実施中で、市町事業でも広く活用されています。勝山市では、ふるさと納税の返礼品として新たに導入しました。現地で寄付し、すぐ

に現地で決済ができる仕組みを採用しています。



デジタルデバйд対策に取り組む市町を支援

デジタル社会への移行が進む中、特に高齢者の情報格差（デジタルデバйд）解消に向けて、昨年度に実証事業を行いました。その結果、スマートフォン操作に対する県民の不安が多く、支援の必要性が確認されました。結果を受けて今年度から事業化し、デジタルデバйд対策に取り組む市町を支援しています。現在、県内4市町から申請があり、各地の公民館等で相談を受け付けています。

今後も、デジタル化に対する県民のみみなさまの不安を解消できるよう、引き続き取り組んでいきます。

